

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	事業対象地の小規模農家が自らの力で生活状況を改善し、十分かつ栄養のある食事を摂り、良好な健康状態を維持できるようになる。
(2) 事業内容	<p>(1) <u>米の生産性向上と営農の多様化を目的とした活動</u> 2015年7月末までに篤農家（各村3名）を対象に稲作技術トレーナー養成研修（3回）、養鶏技術トレーナー養成研修（1回）、家庭菜園トレーナー養成研修（1回）を実施した。さらに、トレーナー養成研修を受講した篤農家が講師補佐となり、延べ4,451名の農家を対象に稲作技術研修（3回）、家庭菜園技術研修（1回）、養鶏技術研修（1回）を行った。また若い農家（各村6名）延べ796名を対象にSRI農法に関する農業技術研修（2回）を実施した。</p> <p>(2) <u>保健衛生や栄養に対する意識向上を目的とした活動</u> 保健ボランティア（各村2名）を対象に栄養に関するトレーナー養成研修（1回）、補完食に関するトレーナー養成研修（1回）、公衆衛生に関するトレーナー養成研修（1回）、疾病予防に関するトレーナー養成研修（1回）、身体測定事前研修（1回）を実施した。さらに、トレーナー養成研修を受講した保健ボランティアが講師補佐となり、乳幼児を持つ母親計1,714名を対象に栄養と補完食に関する研修（1回）、同じく母親たち延べ4,645名を対象に補完食の実演（2回）を実施したほか、農家1,840名を対象に疾病予防研修（1回）、農家1,481名を対象に公衆衛生研修（1回）を実施した。また、若い農家（各村6名）延べ501名を対象に健康促進研修（2回）を実施した。上記の研修と並行して、5月には5歳未満児2,082人を対象に身体測定を実施し、子供の栄養状態のモニタリングを行った。6月には地区評議員、村長、保健センター職員、保健ボランティアら1,592名が参加し、環境美化を訴える公衆衛生キャンペーン（1回）を行った。</p> <p>(3) <u>ネットワークの構築を目的とした活動</u> 3月25日に事業対象地区であるロレニアツピア郡とポリボー郡の両郡合同にて、郡知事、地区長、州農業局職員、郡農業局職員、保健局職員、保健センター職員、地区評議員、村長、篤農家ら328名を対象に両郡合同関係者集会（1回）を開催し、昨年度の成果の確認と今年度の活動内容について意見交換を行った。また篤農家や若い農家ら234名を対象に農業技術に関する情報共有集会（1回）を開催したほか、5地区中4地区において保健ボランティアや若い農家らを対象に保健衛生・栄養に関する情報共有集会（各1回）を開催した（8月下旬に5地区目においても開催予定）。さらに、篤農家、保健ボランティア、若い農家ら計233名を対象にリーダーシップ研修（1回）、延べ503名を対象にネットワーキング研修（2回）を実施した。</p>

(3) 達成された効果

7月31日時点までにみられた各活動の成果は下記の通りである。

(1) 米の生産性向上と営農の多様化を目的とした活動

【指標1】SRI農法、家庭菜園、養鶏を行う農家数が増加する

■2015年SRI農法指標値：対象世帯の72%（4,256世帯）

6月以降の深刻な雨不足により、田植えの開始に大幅な遅れが出ている。例年では7月中旬より田植えが開始されるが、8月10日時点において約70%の対象農家が未だ田植えを開始できていないため、新規導入農家数の算出には時期尚早である。

■2015年家庭菜園指標値：対象世帯の55%（3,221世帯）

家庭菜園新規導入農家634世帯：家庭菜園を営む農家は総計3,969世帯となり、事業対象世帯5,857世帯の68%になった。

■2015年養鶏指標値：対象世帯の52%（3,045世帯）

養鶏新規導入・改善農家465世帯：養鶏を行う農家は計3,013世帯となり、事業対象世帯5,857世帯の51%になった。

(2) 保健衛生や栄養に対する意識向上を目的とした活動

【指標1】5歳未満児の栄養不良（体重年齢比）の割合が減少する

■2015年指標値：WHO標準偏差マイナス2以下27%

5月に身体測定を行った5歳未満児2,082人のうち、生後6ヵ月から59ヵ月の有効サンプル数は1,725であった。WHO標準偏差マイナス2以下の栄養不良率（体重年齢比）は29.9%であった。

全体 1,725名：（栄養不良515名）29.9%

男児 860名：（栄養不良242名）28.1%

女児 865名：（栄養不良273名）31.6%

【指標2】補完食の普及率が高まる

■2015年指標値：過去2週間に補完食を調理した母親を持つ子供の割合60%

5月の身体測定時に生後6ヵ月から24ヵ月の子どもを持つ母親に対して行った調査の結果、過去2週間に補完食を調理した母親を持つ子供の割合は50.4%であった。

(3) ネットワークの構築を目的とした活動

【指標1】農家のネットワークが構築される

■2015年指標値：農民組合が1団体形成される

新たに11のSRI農法グループ（計129名）が形成され、これまでに形成された農民グループは計82になった。10月の農民組合登録に向けて、2地区のグループが準備中である。

※他の指標は12月の米の収穫調査、来年1月に開催される村レベルの関係者集会、及び2016年終了時事業評価にて検証する。

<p>(4) 今後の見通し</p>	<p>今後の活動においても本事業申請時の年間計画に変更はないが、深刻な雨不足により田植えが1か月ほど遅れていることから、SRI 農法導入農家の減少と米の収穫高の減少が懸念される。</p> <p>5月の身体測定時に2015年の指標値に満たなかった「5歳未満児の栄養不良の割合」と「補完食の普及率」については、保健ボランティアを中心とした低体重児のモニタリング体制（低栄養児の世帯状況把握と継続的観察）をさらに強化し、生後6か月から2歳までの乳幼児を持つ母親を対象とした、わかりやすい補完食の教材を製作し、普及と定着に努めることとする。</p>
-------------------	--